争議ニュース

1931・7・7
NO 2
日本窒素合成化学労働組合
長谷川工場支部

工場占領で頑張る争議団！

各組合の應援續々来る！

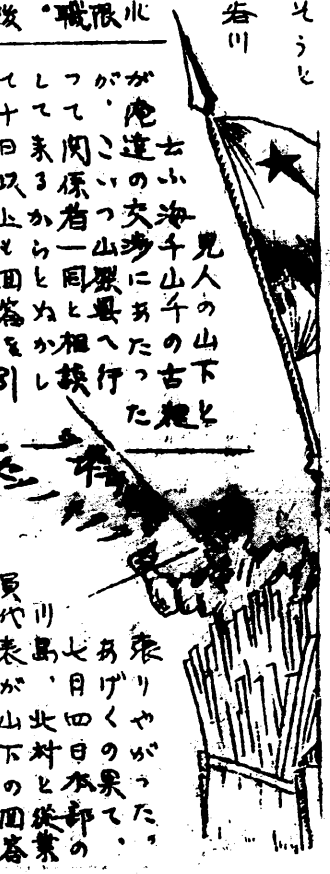
七月四日和田製材所の争議に移るや、争議団は工場を占領して、[illegible]
工場内では初めは[illegible]くつてあたが、俺達の一糸乱れぬ団結の力に根負して早速にも警察へ急報
警官の刀ぢりて無理に追払いとくした
俺達は山下がはじめ工場内に
事を許しつゝ斯くして頑張
晩中に引き上げろ
どうしてもキメない
争議団は事務所に、争議団は
夜を明した。
七月五日「和田の兄弟一斉
の報を聞いて船夫組
木場働其の他の
が續々とかけ付けて

争議団員を激励し、争議団の士気いやが上にもたかまった。
午後工場の屋上に組合旗をたくづつ立てる一方、工場内ではメーデー歌を高唱しつゝ、勇敢にデモを敢行した。同事なつんと押し寄せる町民、通行人の整理に、交通巡査まで一時出かけ[illegible]
上の一方、工場主側では[illegible]
大引込がつかない
ダダダだ！

この意気で最後まで
攻撃に出ろ
あらゆる戦術で勝て！
団結の力で
つまり戦力で勝て！
争議の組織
争議の勝利
争議の目的は労働
資金を獲得
獲得した
選れ！！！

この決金でごまかそうと

したのだ。
俺達はそこで直ちに長谷川
岩の後職と、並に今後、
岩の後職ジの勝手で兄弟達
のクビを二束三文で切られ
それはたまらぬから勤續年限
に相当した職工一同の退職
手当制度を要求したのだ。
制度の方では、オヤジの後



去ふ海千山千の古狸と
見人の山下が俺達の交渉にあたつた
が、こいつ山猫男へ行
つて関係者一同と相談
して来るからとぬかし
て十日以上も回答を引
張りやがつた。
ありげくの果て、
七月四日本部の
川島、北村と従業
員代表が山下の回答

を聞いた所、長谷川岩の後職は絶対ゆかりならぬ。退職年勤制度は認めぬ。それに長谷川君の解雇事当も従来の例へそれは異くそ狸のめくされ金だ）以上には出せぬとぬかして[illegible]
それにいけ圏をしくも不景気で工場の経営が困難な時だから沈廃入
来れ、それを聞き
分けないで、スト[illegible]
をしやうものなら都つて不為だとほざきやがつた。事務は一つとして入れずに人を
なめた挑撃が聞いてみられるか？俺達は[illegible]
引上げて直ちに職場[illegible]
和田製材
の兄弟は口々に和田の
不当をならして職場一
致、当初の要求貫徹を
期してストライキを宣
言した。間時に争議団
の編成に取りかゝり工
場を占領することになつた。
[illegible]
[illegible]
[illegible]